

2001

1

JANUARY

創刊号

はあとふる



発行日 H13.1.
(発行・編集)
はあとふる編集部

年頭書簡

21世紀スタートの年を迎えて

はあとふるグループ代表

島田 永和

皆さん、新世紀、おめでとうございませう。新しい世紀の始まりです。今年が、100年どころか、1000年の区切りと云うことになりました。こう云うキリの良い年を迎えること、どうしても、物事に、節目をつけて考えるようになりませんか？昨日までと、今日からがまるで違うことが起こるような錯覚も起こりそうです。

しかし、時は、一刻も止まることなく流れていきます。川の流れのように、とどまることなどありません。また、どこからどこまでと線を引くこともできません。たとえ、お正月でも、たとえ、新しい世紀を迎えても、いつもの朝であり、いつもの自分です。暦や一日の区切りというのは、もともと、人間が、生活に便利なように、無理に作ったものだと思います。これのおかげで、仕事には期限がつきます。いつまでに仕上げよう、と、注文ははっきりしますし、業務においても、管理は楽になるでしょう。しかし、一方では、息の長い仕事ができなくなってきたようにも思います。心の中の念じる思いが、途切れがちになるためでしょうか。

成果を求め、効率を追求し、現代人は20世紀を突っ走ってきました。あまりに早く移動してきたために、社会のシステムの中に、少しずつほころびが生まれ、人々の心には、何かを積み残したような

不安がのぞいている気がします。それを一番感じているのは、子供達でしょう。私たちは、少し、スピードダウンして、落ち着いて、時間を使ってみるべき時に来ているのかもしれない。ゆっくりと移動しながら、景色の変化や、人情と触れ合うような、一昔前の「旅」のスタイルが必要な気がします。

私たちの仕事である「ケア」についても同じだと思います。これから求められるのは、一人の人間、一つの出来事が持っている周辺に関心を払い、対応するようなゆとりのあるケアです。核心部分の修理をきちんと行うことは、最低条件です。ケアに関わる当事者同志が、お互いに、「お互いの人生の物語性」を味わうようなケアです。こうしたケアの体制は、一人で完成させることは不可能です。ケアを担当するすべての職種のチームとしての働きが要ります。それと同時に、利用者の方の理解と協力がなければ、とても実践することはできません。

はあとふるグループでのケアが、一定の技術レベルを保ちながら、その名前の通り、ハートに満ちたものとなるよう、代表としての活動を、責任を持って、遂行しなければと決意を新たにしています。今後とも、どうぞよろしくご指導いただきますように、お願いいたします。



WELCOME TO 『はあとふるグループ』

『はあとふるグループ』は各施設が連携して
利用者の「自立」や「その人らしく生きること」を
支援していきます

『はあとふるグループ』（医療法人永広会）は羽曳野市の地域医療を担う島田病院を中心に、健康管理、リハビリテーション、高齢者ケアサービス、訪問看護・在宅医療まで、複数の異なる機能を有するヘルスケア複合体です。

「私たちは、その人がその人らしく自分の人生を全うすることを、心（Heart）と技術（Hands）で支援します」を職員憲章とし、各施設が連携を図りながら、全人的で継続的な個々の人間の価値観を尊重したヘルスケア・サービスを提供します。

それでは『はあとふるグループ』各施設で提供されているサービスを個別にご紹介していきます。



はあとふるグループのご紹介

《はあとふるグループ使命》

はあとふるグループは、良質のヘルスケアを効率よく地域の方々に提供し続けます。



▲島田病院▼



最先端の医療を提供すると同時に
地域で信頼される「かかりつけ」病院

基本理念

人間愛と確かな技術に基づき、
職員全員による患者さま本位の
ヘルスケアサービスを通し、地域の積極的な
健康づくりに関与する病院を目指す

島田病院は近鉄南大阪線「藤井寺」

駅より専用送迎バスで約10分。200ベッド（一般病床40床・結核病棟160床）の入院施設を持つ、地域密着型の病院です。診療科目は整形外科、内科（神経内科、呼吸器科、一般内科）、リウマチ科、リハビリテーション科です。地域においてはスポーツ整形外科を中心とする整形外科診療について、一定の評価が確立してきました。今後も、より専門性を高めるよう努力いたします。

また、内科は「良質のかかりつけ医」として、できるだけ間口の広いヘルスケア・サービスを提供してい

きたいと考えています。

私たちの「専門医療」と「良質なかかりつけ医」という2つの基本的な医療活動のなかで、1つの柱となるのはリハビリテーションです。整形外科疾患、関節外科手術後、スポーツ障害などの整形外科リハビリテーションや慢性疾患に対するリハビリテーションとともに、地域の高齢者・障害者のQOLの維持、向上を支援し、地域リハビリテーションシステムの一翼を担います。そのためには、医師、看護師、理学療法士、作業療法士など各職種のコラボレーションが重要と考えています。

介護老人保健施設
悠々亭



明るく家庭的な雰囲気の中で
お年寄りの「家庭復帰」を支援する施設

基本理念
人間愛と確かな技術に基づき
職員全員による利用者本位の
ヘルスケアサービスを通し地域の高齢者の
積極的な生き甲斐づくりに関与する
施設を目指す

自適」の生活をお送りいただくため
のお手伝いをいたします。
介護老人保健施設「悠々亭」のサ
ービスには、大きく分けて次の三つ
があります。

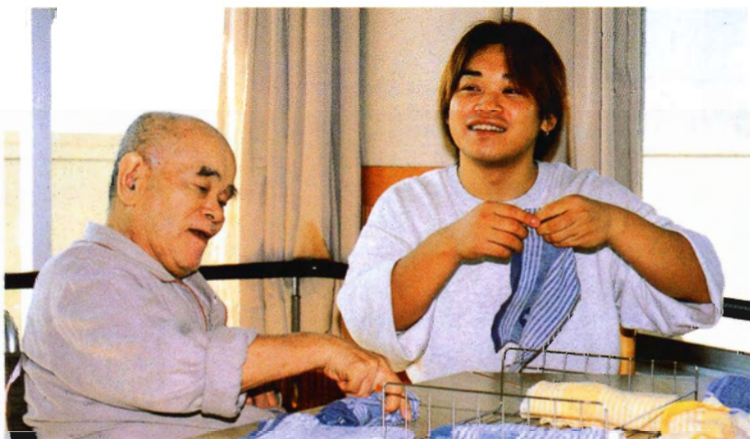
**生活スタイルに合わせた
サービスを提供**

「介護老人保健施設サービス」は、
入所のお年寄りの日常生活の自立を
助けるために、理学療法士、作業療
法士、言語聴覚士が計画を立て、看
護、介護、リハビリスタッフが協力
して、生活にまつわる行動を通して、
心身の機能の回復の支援を行うサ
ービスです。

例えば、入所者の中には、転倒を
恐れ、ご家庭では積極的に運動がで
きずに足腰が弱ってしまう方が多く
おられます。そのような方が入所さ
れ、バリアフリーという居住空間の
中で、安心して思う存分歩いたり、
レクリエーションに参加されること
によってしっかりとした足どりで歩け
るようになれます。

また、お手伝いができる範囲で、
入所されている方が使うおしぼりを
巻いたり、コップを洗ったりしなが

ら、皆で支え合い、協力しながら感
謝される充実感を味わっていただ
けます。他にも手芸クラブ、陶芸クラ
ブ、音楽クラブなどの多彩なクラブ
活動も行われており、各種クラブ活
動に主体的にご参加いただくことで、
趣味を同じくする仲間やクラブ内
での役割、しいてはやりがいを見つ
けていただくことができます。



介護老人保健施設「悠々亭」は、
病状が安定しているものの、家庭で
の介護や退院後リハビリの必要な
お年寄りが、家庭復帰して自立した生
活ができるように、心身の自立をお
手伝いさせていただくための施設で
す。
ご本人ご家族と相談の上で、お年
寄り一人ひとりのライフスタイルに
合わせたサービスを提供します。
明るく家庭的な雰囲気の中で、日々
のレクリエーションや月々の楽しい
行事を通して、スタッフ全員が「悠々

入所中の生活は、入所前にかかりつけ医からの医療情報に基づき、必要な治療継続と健康管理を医師や看護師により定期的に行っています。毎日の食事は、管理栄養士がお一人おひとりの身体状況や嗜好を考慮して、栄養のバランスが取れた献立を考え、適温で提供いたしております。また、入浴は午前・昼間・夜間に実施しており、入所前の生活に近い環境での入浴サービスを提供しています。

入所定員は100名で、入所施設は個室と2人部屋を用意しており、トイレ付きの特別室も設置しています。

これら施設での生活の一つひとつが「生活リハビリ」となり、心身機能の回復が促進され、元気にご家庭へ復帰されていきます。

通所リハビリテーション ―施設に通って運動機能を回復―

「通所リハビリテーション」は、お年寄りが介護老人保健施設に通ってリハビリテーションを受けるサービスです。お年寄りの日常生活の自立を助けるために、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が計画を立て、看護、介護、リハビリのスタッフが協力し、生活にまつわる行動を通して、心身の機能回復の支援を行います。

「悠々亭」の通所リハビリテーションで重視しているのは、「生活リ



ハビリ」の考え方で、生活にまつわる行動を1日のうちに繰り返し行っていたり、運動機能が改善するように支援します。例えば、湯舟にゆったりとつかるといった日本の文化でもある入浴は、日常生活動作の集大成ともいえる行動ばかりです。入浴中・入浴前後に行われる行動を通じて、運動機能を高めることが出来るように言葉かけ・介助を行うっております。さらに、床の上での運動では痛みが生じて、なかなか機能訓練が進まない方やご自分では動くことが難しい寝たきり状態の方のために、「入浴体操」を考案しました。

「通所リハビリテーション」のご利用定員数は、従来の30名から50名に増員され、ご利用時間帯は、午前9時から午後8時まで。ご利用者の目的やご都合に応じて選択できる多

彩なコースを設け、平成13年1月8日より祝日のサービスも開始します。

また、平成13年4月に開設の社会福祉法人高齢者生活福祉センター「ゆうゆうハウス」でも介護保険制度で要支援・要介護と認定された方を対象に、定員

20名で「通所リハビリテーション」をご利用いただくことができます。

短期入所療養介護サービス ―ご家族の介護負担を軽減―

「短期入所療養介護サービス」は、介護保険証に記載された期間、介護老人保健施設に入所するサービスです。

お年寄りの介護をされている方の介護疲れを癒すため、予約をしての入所はもちろん、急な入院や冠婚葬祭などで一時的にご家庭での介護が困難になった場合にも対応できます。いざというときにご利用下さい。

出来立て配食サービス

「悠々亭」では、羽曳野市在宅給食サービス事業の委託を受け、介護保険外の福祉サービスとして「配食

サービス（昼食）」を実施しています。ご利用いただける方は左記の通りです。

- ◆ 羽曳野市在住のお一人、またはご夫婦でお暮らしの方で次の方が対象です。
- ◆ 65歳以上の方
- ◆ 障害をお持ちの方



メニューは普通食のみならず、糖尿病、肝臓病など食事療法の必要な方にも対応でき、ホームヘルパーによる安否の確認も致します。

営業日および時間帯は、月曜日～土曜日の午前11時～12時30分頃で、日曜日はお休みしています（但し、祝日は営業）ので、お気軽にご相談下さい。

はびきの健康プラザ ウェルネス

「健康生活」を支援

基本理念
人間愛と確かな技術により
個人のQOLの維持・向上を支援し
地域の積極的な健康づくりに
関与する施設を目指す



健康プラザ「ウェルネス」は島田病院の施設内に設置され、スタッフは「病气やケガにならず、さらに健康に」をモットーに、次のような業務に取り組んでいます。

- ① 企業で働く方々を対象に各種健康診断を始め、体力測定などを加え、生活変容を促すT・H・P健康診断の実施。
- ② 「元気な中高年を増やす」ことを目的に、「会員制健康増進クラブ ヴィゴラス」で集団運動プログラム等の実践、羽曳野市の委託事業として保健センター等での健康教室の実施。
- ③ 「現場でできることは現場で対応する」ことを目的に、学校の運動クラブや、スポーツチームの現場に直接出向き、スポーツ障害の相談、予防についての指導。
- ④ 市町村の体育館や、様々な団体より講師派遣の受託。(スポーツ障害、健康づくり運動、腰痛教室等)
働く方々や中高年、スポーツ選手が「その人のQOL」の維持、向上を全面的に支援します。

八尾はあとふる病院

充実したリハビリと介護により 患者様の自立を支援

基本理念
人間愛と確かな技術に基づき
職員全員による患者様本位の
ヘルスケア サービスを通し地域の積極的な
健康づくりに関与する病院を目指す



八尾はあとふる病院は、八尾市にあり近鉄久宝寺口駅より徒歩5分。内科、外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科を標榜し、特例許可老人病床と介護療養病床、合わせて109床の入院ベッドを持っています。病状が慢性期で、治療・療養、特に機能訓練の必要な患者様に、入院していただいております。

療養上の医学的管理・看護のもとで、機能訓練を行うとともに、患者様の自立を支援し日常生活の介護を行います。

できるだけ早期に、ご家庭への復帰をお手伝いさせていただきます。

常勤の理学療法士が3名、言語聴覚士1名によりリハビリテーションに力を入れるとともに、訪問看護・訪問リハビリを積極的に行っています。院長はスポーツ整形外科の専門医で、院長外来は月・金曜の午前と火曜日の夜診です。

常勤のMSW(医療相談員)も3名おりますので、お気軽にご相談下さい。

患者様のご紹介について

- ① 担当者(医療相談室)へ電話相談
- ② 紹介状(診療情報提供書)のFAXをお願いいたします。
- ③ 医師に病状を確認します。
- ④ 御家族との面接と見学をお願いいたします。
- ⑤ 入院日時等の設定

訪問看護ステーション
ハートパークはびきの

訪問看護婦がご家族をサポート

「ハートパークはびきの」は訪問看護・在宅医療を担う部門です。

看護が必要とされた方やご希望の方、痴呆状態で病状観察や介護の必要がある方、病氣・ケガなどで自宅療養されている方などを対象に、ご自宅に看護婦が直接訪問させていただき、在宅療養のお手伝いをします。

私たちは常にご利用者の「かかりつけ医師」の指示書に基づき、お手伝いいたします。訪問の都度、ご本人の健康状態を的確にチェックし「かかりつけ医師」との連絡を密にして適切な処置を行い、またご家族へのアドバイスやサポートを行います。



在宅介護支援センター
悠々亭

高齢者に関する情報・相談・サービスの中核機関

「在宅介護支援センター 悠々亭」は、高齢者に関するあらゆる情報・相談サービスの中核的な集約・発信・調整機関です。

介護保険制度のもとでは、サービス利用者に対する十分な情報ときめ細かな相談・助言が必要であり、その役割はより一層大きくなっています。羽曳野市の委託を受け、以下のサービスを提供しています。

- ① 地域のあらゆる高齢者を把握する
- ② 地域のあらゆる高齢者に情報を提供する
- ③ 高齢者やそのご家族のご要望に沿えるようなサービス内容を調整する

ヘルパーステーション
悠々亭

介護・家事等のサービスを提供

ヘルパーステーション悠々亭は、身体または精神上的の障害をお持ちで、日常生活を営むのに支障があるお年寄りのご家庭に、「ホームヘルパー」を派遣し、介護（食事・排泄など）、家事（調理や洗濯など）、その他ご家庭で必要なサービスのご提供をいたします。

介護保険の認定を受けられた方で、日常生活に不安をおかけでしたら、ご相談下さい。

サービス内容

<p>《ご相談・助言》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 生活、介護に関するご相談 ② 住宅改良に関するご相談 ③ その他必要なご相談、助言 	<p>《家事》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 調理 ② 衣類の洗濯・補修 ③ 住居の掃除・整理整頓 ④ 生活必需品の買い物 ⑤ 関係機関（病院・市役所など）との連絡 ⑥ その他必要な家事 	<p>《身体の介護》</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 食事の介護 ② 排泄の介護 ③ オムツ交換・トイレ介助 ④ 衣類の着脱の介助 ⑤ 入浴の介助 ⑥ 身体清拭（清潔）・洗髪 ⑦ 通院の介助
--	--	--

サービス内容

- ☆健康状態のチェック
- ☆日常生活の看護
- ☆在宅リハビリテーション看護
- ☆検査・治療のための看護
- ☆痴呆症の看護
- ☆介護相談
- ☆各種チューブ類の管理

公的介護保険に関する
地域のよろず相談所

介護サービスセンターゆうゆう亭
介護サービスセンターはあとふる

この2つは介護老人保健施設「悠々亭」と八尾はあとふる病院各々の施設内に設置されたおり、介護支援専門員（ケアマネージャー）がお年寄りやご家族から介護保険や介護に関するご相談に対して責任を持って対応致します。

- （具体的には）**
- ① 介護相談、各市町村に対する介護認定申請手続きの代行
 - ② 介護ニーズの把握
 - ③ 介護サービス計画の作成・見直し
- （ホームヘルパーの派遣や通所サービス・短期入所の手配など）

あなたの生活にあった介護計画（ケアプラン）をお作りします。お気軽にご相談下さい。（ご相談いただいた内容につきましても、秘密厳守致します）



はあとtoハート

information

TOPIC

シニアオリンピックを観戦して

はあとふるグループ代表 島田永和

何でも「一番」になることは大変なことです。スポーツの世界でも、もちろん、同じことです。四年に一回のオリンピックで、表彰台の真ん中に立つには、並外れた「実力」と「計画性」、そして、「運」が揃わなければなりません。

マラソンの高橋選手、柔道の「柔ちゃん」と田村選手の金メダルには、多くの日本人が心を躍らせたと思います。団体競技では、シンク口の演技も素晴らしいものでした。たまたま、コーチの井村さんとは、以前からお付き合いがあり、数人の選手の診療も担当しておりました。医師として、選手に出会うのは、彼らが困っているときです。故障の箇所の痛みよりも、試合に出られないかもしれないという恐怖や不安で落ち込んだ状況の時、対応しなければなりません。

今回のメンバーの中にも、歩けないほどの腰痛を経験した選手が含まれていました。そのときの彼女との対話を思い出しながら、私も、テレビの前で、手に汗握り、応援しました。演技が終わり、高得点が表示された時には、ぐっと胸にくるものがありました。

帰国後、見せてもらった銀メダルは、ずっとりと重く、彼女たちのそれまでの苦労が詰まっているように思いました。すでに、次の世界選手権に向けて、彼らの練習は始まっています。ほんの瞬間の感動を得るために、際限ない努力が積み上げられています。近くにいたり、そのことを痛感します。報告会での彼女たちの晴れやかな表情を見ながら、私たちの仕事に生かせる教訓を得た気がしました。

職員の学術発表会

「第9回 はあと&はんずアカデミー」盛況!

はあとふるグループの職員による学術発表会「第9回 はあと&はんずアカデミー」が11月17日、羽曳野市にある近畿コカコーラボトリング(株)美原工場内のPRホールにて開催されました。この学術発表会は、はあとふるグループ職員の日々の活動内容を演題発表やポスター発表等でオープンにし、各施設、各部門間での積極的な意見交換や質疑応答を通して、より質の高いサービスの提供およびご利用者に満足いただける施設を目指すことを目的としています。



今回で第9回目を迎える学術発表会ですが、今回は「危機管理」というテーマで、島田病院、八尾はあとふる病院、介護老人保健施設 悠々亭、訪問看護ステーションハートパークはびきの、法人管理局の代表者がパネルディスカッションを行いました。個人のプライバシーを尊重、転倒事故の防止対策、行方不明者捜索マニュアル作成、施設のライフラインに関する対策等、さまざまなリスクと対策について活発な意見交換が行われました。

丸1日を通して、合計12演題、6部門からのポスター発表および質疑応答が行われました。まだまだ、課題はたくさん残っていますが、職員による充実した意見交換の場となりました。

社会福祉法人 高齢者生活福祉センター

「ゆづりゆうハウス」開設のお知らせ

この施設は、居住部門(定員6名)と介護保険制度下での通所介護(デイサービス機能)を併せ持つ施設です。居住部門は、60歳以上の一人暮らしの方やご夫婦のみで生活されている方で、独立して生活されることに不安のある方を対象としています。平成13年4月の開設に向けて、現在、島田病院の敷地内にて建設中です。

編集後期

明けましておめでとうございます。

21世紀の到来と同時に発刊した広報誌「はあとふる」をお届けします。
『はあとふるグループ』の情報発信ツールとして、地域の皆さまとの意見交換の場としても、ご活用いただければと思います。

誌面内容についてのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

「はあとふる」編集部

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1 法人管理局内
TEL0729-53-1001 FAX0729-53-1552